

# 初の女性実行委員長が描くさくらフェス!



さくらフェスみの〜れ実行委員長

かわさき まき  
**川崎麻貴**さん

「アットホームなみの〜れは、  
足を運びたくなる場所です」  
と語る川崎さん

みの〜れと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
のすすめ  
No.103

健やかに新しい年をお迎えのことと思います。今年もよろしくお願ひいたします。暖冬のおかげか紅梅や白梅が咲きましたね。21日は一年の中で最も寒い大寒。冬野菜たっぷりで熱々のけんちん汁や豚汁を食べて温まって下さい。今回は4月に行われるさくらフェスティバルにおいて、初の女性実行委員長である小美玉市小川地区にお住いの川崎麻貴さん取材します。

「また来たい」と  
思える企画を!

川崎さんは茨城大学教育学部の3年生で、さくらフェスティバルに関わって3年目です。さくらフェスティバルとの出会いは、「大学で『子どもふれあい隊』というサークルに所属していて、1年生のとき、そのサークル宛にさくらフェスティバル参加の募集があり、ボランティアで当日の1日だけお手伝いに来ました。それが、みのおれとの出会いでもありました」と、川崎さん。

「2年目は、大学に実行委員募集の案内があり、『1年目の楽しかった思いをもう一度』という思いから、今度は創る側として参加しました。そして今年が3年目。恐らく来年は就職活動で忙しくなってしまうと思うので、今回は思い切って委員長を引き受けました。さくらフェスティバル実行委員会は、5つの部門に分かれていて、これから4月のさくらフェスに向け、それぞ

れが色々な案を持ち寄って創り上げていきます。建築が得意な方や、アイデアが豊富な方、手先が器用な方などなど、年齢層も幅広い多彩なメンバーが揃っていることにより、毎年、楽しいフェスティバルが出来上がっています。と爽やかな笑顔で話してくれました。

大学では、サークル活動に力を入れていたとのこと。『子どもふれあい隊』では、大子町の廃校になった学校跡地を利用してサマーキャンプを実施しています。参加者は、大子町と水戸市の子どもたちで、いい交流の場にもなっており、毎年、応募者多数で抽選になるくらい人気があります。そのほか、他大学や他団体が実施する子どもとふれあう事業に参加し、ボランティア活動をしています。子どもとふれあう体験を通して、本当に子どもって面白いなと思っています。大人では思いもよらないような考え方を持っているから楽しいです!」と、子どもが大好きな様子が伺えました。

さくらフェスティバルに向けての意気込みを聞いてみると、「出来ればポカポカ陽気になるといいですね。また来年も来たいなって思えるようなさくらフェスティバルにしたいです。今年のテーマは、『みの〜れ丸』。みの〜れの暴走を君は止められるか?」です。みの〜れという船に、暴走しそうになるくらい面白い企画をたくさん詰め込みたいですね。どんなさくらフェスになるか楽しみます。当日は、実行委員長の挨拶があるので男性に負けないように頑張ります」と話してくれました。

川崎さんにとってみの〜れは、「いつでも来たいと思います。ゆっくりおしゃべりしたくなるような、あったかい場所です」と話します。4月2日(土)に行われるさくらフェスティバル。毎年桜色に染まるみの〜れで楽しい一日を過ごしませんか?

(藤田佐知子)